

目指す学校像	◆生徒一人ひとりが「来甲斐」「居甲斐」「やり甲斐」のある学校 ◆伝統の継承と新たな構築による信頼される学校
--------	---

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化、学びの探究化に向けた取組の推進 2 安心・安全な学校生活を目指し、自尊感情を高める生徒指導・教育相談と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールの着実な推進と保護者・地域との連携強化 4 生徒一人ひとりが力を発揮できるようにするための教職員研修によるICT活用能力の向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日 令和6年2月15日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」(国語・数学・理科)では、概ね良好な結果である。 ○日頃の学習状況の様子から、どの教科でも課題に対し、真面目に取り組む姿勢が見られる。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の項目が他の項目と比較して課題が見られる。 ○日頃の学習状況の様子から、意欲的に学習活動に取り組む生徒が多い中、自ら主体的に物事を解決する姿勢に課題が見られる生徒も少ない。	・学びの自律化と個別最適化に向けた授業改善 ・主体的に物事を解決する力の育成を目指したSTEAMS教育の充実	①週2回、朝読書の時間帯にスタディ・サブリに取り組み時間を設け、自主学習の場を提供する。 ②小テスト・振り返り、補充学習を通して基礎・基本の定着を図るとともに、学習状況に応じ、スタディ・サブリ等も活用しながら復習、応用、発展に取り組み時間を設ける。 ③年間を通して、タブレットパソコンを活用しながら、課題に対し、自力解決の場を多く設定する。	①スタディ・サブリを活用し、生徒自身が課題克服を目指し、取り組むことができたか。 ②小テスト等の基礎の確認テストでは、正答率を80%以上にすることができたか。また、生徒が自分の学習状況に応じて課題に取り組むことができたか。 ③生徒が自ら課題を解決する姿勢をもって課題に取り組むことができたか。	①スタディ・サブリを活用した学習を、週2回、朝自習の時間帯に実施でき、宿題配信、授業での活用、家庭学習など通し多くの生徒が自ら課題克服に取り組んだ。 ②国語、数学、英語等での小テストの正答率は概ね80%であった。生徒は、自己の学習状況に応じて、課題に取り組む時間を設定することができた。 ③タブレットの活用頻度は概ね良好だが、自力解決の場の提供には、まだ教職員によって差異がある。	B	○スタディ・サブリの活用、小テスト等を通じた基礎・基本の定着を目指した取組を実践できたが、生徒一人ひとりの学習到達度に応じた指導の工夫・改善がさらに必要である。また、タブレットの活用頻度は高いが、活用の仕方をさらに研究し、学びの自律化と個別最適化の視点で授業の工夫・改善を図ることに努めたい。	○スタディ・サブリの活用状況がよいことや、小テストの正答率が8割を超えていること、8割以上の学校評価アンケートの肯定的な回答状況から、ほぼ達成のA評価でよいのではないかと。
2	<現状> ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 ○日頃の生活の様子から、コロナ禍によるストレスや不安感、人間関係のトラブルなどを抱えている生徒も少なくない。 <課題> ○いじめの撲滅と不登校生徒の減少に向けて、組織的・計画的な生徒指導・教育相談体制の更なる充実が課題である。 ○自己肯定感の低い生徒たちが、安心安全な学校生活を送れるようにするために、学校行事や授業を通じて、一人でも多くの生徒が達成感や達成感を感じることができる教育活動を工夫することが課題である。	・生徒一人ひとりに寄り添いよりよい生活を送るための支援体制の強化 ・自己肯定感を高める学校行事や特別活動の実施	①週1回の生徒指導委員会及びいじめ対策小委員会を開催し、生徒指導に係る情報の共有と方策の検討を行う。 ②週1回の教育相談部会における「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、生徒一人ひとりに適切な対応ができるようにする。 ③生徒の心に寄り添い生徒の自己肯定感を高めるような、生徒への声掛けや二者面談を行う。	①学校評価アンケートの教育相談に係る評価項目で、生徒から90%以上の肯定的な回答となったか。 ②心と生活のアンケートとともに二者面談を実施することができたか。 ③不登校傾向の生徒の生活に行動変容や意識の変容の兆候が見られたか。	①学校評価の生徒のアンケートでは、肯定的な回答が81%で概ね良好であるが、目標値には届かなかった。 ②心と生活のアンケート結果に基づき、確実に全対象生徒との二者面談を実施することができた。 ③不登校傾向の生徒の中には、オンライン授業やGrowthへの参加、相談室や自習室への登校などの行動変容が見られる生徒が出てきている。	B	○生徒一人ひとりの状況に応じて、校内及び関係諸機関と連携を図りながら個に応じた支援に引き続き務め、人間関係作りや自身の問題解決力の育成は今後も必須である。1年次より自分で考え、判断し、解決する力を高められるよう取組、教育活動を継続して行う必要がある。	○妥当な評価である。
3	<現状> ○昨年度の学校運営協議会準備委員会では、熟議を重ね、「自ら考える力」と「コミュニケーション力」を育成したい力とし、その育成のために学校・保護者・地域総がかりで取り組める活動について話し合った。 <課題> ○今年度は、学校運営協議会の更なる充実を目指し、目指す生徒像をもとに身に付けてほしい力について熟議し、その実現のために、学校運営協議会が中心となって、地域学校協働活動を実施することが課題である。	・生徒の学校生活の様子を地域・保護者への情報発信と学校公開 ・地域学校協働活動案の策定と実施	①学校HPや学校だより等に、生徒の活動の様子を伝えるページを作成し、家庭・地域に発信する。 ②学校公開(体育祭、合唱祭、文化祭、寿能台レース)、保護者会、授業参観など学校を地域・保護者に公開する。	①学校評価の保護者アンケートで情報公開に関する項目において、肯定的な回答が前年度を上回ったか。 ②体育祭、合唱祭、文化祭、保護者会、授業参観など、地域・保護者に学校公開を実施できたか。	①学校評価の保護者アンケートで情報公開に関する項目において、肯定的な回答が82%で、昨年度より下回ってしまった。 ②体育祭、合唱祭、文化祭、保護者会、授業参観など、地域・保護者に学校公開を昨年度以上に積極的に実施できた。	B	○生徒の学校生活の様子を、地域・保護者へ、より分かりやすくかつタイムリーに情報発信と学校公開を進めていきたい。	○妥当な評価である。
4	<現状> ○エバンジェリストを中心に、ICT機器、一人1台タブレット端末を活用した授業について研修を重ねてきているが、教職員間で取組に差異がみられる。 <課題> ○全ての職員が「学習の個別最適化」「学習の自律化」の実現を目指し、タブレットなどICTを効果的に活用した授業改善のための研修を行うことが課題である。	・ICT機器を活用した、アクティブ・ラーニング型授業の実践	①市教委の学力向上カウンセリング研修や年3回のICT活用研修及び全国学力・学習状況調査、市学習状況調査結果等により、本校の実態を踏まえ、指導方法を研究する。 ②タブレットを活用したアクティブ・ラーニング型授業を全教職員の校内授業研究会を年1回以上、エバンジェリストによる校内授業公開を年2回行い、指導力の向上を図る。	①学力向上カウンセリング研修や全国・市の分析結果を踏まえ、本校の課題を明らかにし、授業改善の視点・手立てを設定することができたか。 ②校内授業研究会を通して、タブレットを活用したアクティブ・ラーニング型の授業実践に取り組むことができたか。また、生徒対象の「学びの指標」授業アンケートで肯定的回答の数値が3以上であるか。	①指導主事を招聘し校内研修会を実施して、「学習の個別最適化」「学習の自律化」について本校の課題を把握し、教職員が授業改善に生かすことができた。 ②タブレットを活用したアクティブ・ラーニング型授業の研究授業を全教職員が1回以上実施することができた。また、「学びの指標」の授業アンケートでの校内平均は、「主体的な学び」3.1、「探究的な学び」3.2で概ね良好な結果であった。	B	○エバンジェリストを中心に、教職員のICT活用能力と授業力を高めてきたが、次年度も引き続き、全ての職員が「学習の個別最適化」「学習の自律化」の実現を目指し、タブレットなどICTを効果的に活用した授業改善の研修を行っていきたい。	○妥当な評価である。